

犬山の自然をたずねて

つがおさん
～継鹿尾山周辺コース～

犬山市

つがおさん
継鹿尾山周辺コース位置図



コアブラツツジ



継鹿尾山周辺コース

現地までの交通／
 ・名鉄犬山線犬山遊園駅下車徒歩約15分
 ・犬山橋から車で約5分
 (詳細 P. 3~4参照)



バイカツツジ

市長のごあいさつ

人間として初めて宇宙へ飛び出したガガーリン少佐の感動的な言葉は「地球は青かった」でした。

文明がどれだけ栄えても、大自然の美しさは人の心を感動させるものだと思います。

私達の住む犬山市は、犬山城をはじめとする歴史的な文化遺産と、水と緑にあふれる東部丘陵の自然に囲まれ、ここを豊かにする環境を持つ愛知県内でも屈指のまちです。

こうした環境についての知識を深め、犬山市の良さを再発見していただくために、「犬山の自然シリーズ」として市内の自然を紹介する冊子を作成してきました。

平成5年度からは、手軽な自然観察のガイドブックとして「善師野周辺コース」、「入鹿池・五条川周辺コース」を作成しています。

今回は、寂光院（じゃっこういん）や国際交流村を中心とした「継鹿尾山（つがおさん）周辺コース」を紹介させていただきます。

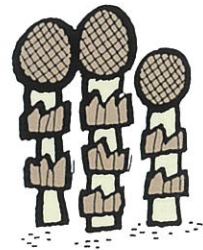
このガイドブックによって、より多くの方が優れた自然環境の中に飛び込んでいき、犬山市の持つ貴重な資源を育てていくきっかけとなれば幸いです。

平成8年3月

犬山市長 石田 芳弘

も く じ

- 準備をしよう1
- 継鹿尾山周辺コース案内図3
- ①継鹿尾の集落から5
- ②山頂へ向かう道で6
- ③観音橋周辺を歩く9
- ④犬山国際ユースホステル周辺11
- 陸に住む貝12
(陸貝の仲間たち)
- 大空を見上げてみれば13
(観察できる鳥の仲間たち、バードウォッチングをしよう)
- 冬の寒さのなかで15
(冬の木の顔。春を待つ木の芽たち)
- いろいろなツツジ17
(ツツジの仲間たち)



★★★★ 準備をしよう ★★★★★

◎はじめに

継鹿尾山（つがおさん）周辺コースは付近に名鉄犬山遊園駅があります。また、周辺に駐車場もありますので、車を利用してコースの付近まで来ることができます。

コース設定については、前日までに地図で場所を確認し、自分の体力を考えて決めてください。このコースでは山道を歩くこともあるので、普通に歩く時間よりもかなり多めに時間を取らないと観察をすることはできません。

地図は国土地理院の2万5千分の1の地形図（犬山）が便利ですが1枚になった都市地図も利用できます。用意ができれば前日は早めに就寝し体調を整えてください。

なお、当日は時間に余裕を持って行動しましょう。途中でけがをしたり気分が悪くなったら、コースの途中でも観察をやめて適切な処置をしてください。

◎服装について

目的や場所によって多少変わりますが、このコースでは長ズボンに長そでのシャツ、帽子に運動靴を基本にします。山の中では毒虫や木のトゲ、木や草の葉などでけがをしたり、かぶれたりすることがあり注意が必要です。

◎持ち物について

これがないと観察できないという物はありませんが、あれば便利なものを書いておきます。

ノートと鉛筆

ノートはポケットに入る物、鉛筆は使い古しの短いものにひもを付けて首に掛けておくと便利です。

双眼鏡

鳥や木の上の方を観察するのに便利です。倍率の高いものは視野が狭く重いので7～8倍のものが便利です。

逆さにして対物レンズから見るとルーペの代用にもなります。

○ルーペ

適当な倍率は、10～15倍程度です。

○図鑑

保育社「カラー自然ガイド」、野鳥の会「野山の鳥」など持ち運びのしやすいものにします。

○その他

一日の予定の時は弁当、水筒、雨具、ゴミ袋、手ぬぐい、手袋、虫よけ、救急薬品など、さらに記録が必要ならカメラ、テープレコーダーなどを手に持たないでリュックサックにいれます。

※付近の公共施設

○犬山国際ユースホステル

サークル活動、会議などに利用できる集会室（2室）と客室（27室）がある宿泊施設。犬山での観光・ビジネス等の拠点として利用されています。

○犬山国際交流村

外国人観光客との交流・ふれあいを目的とした公園で、入口広場とイベントなどに利用できる野外ステージのある交流広場があります。

なお、入口広場と交流広場はゆるやかな傾斜のプロムナード（遊歩道）で結ばれています。



犬山国際ユースホステル

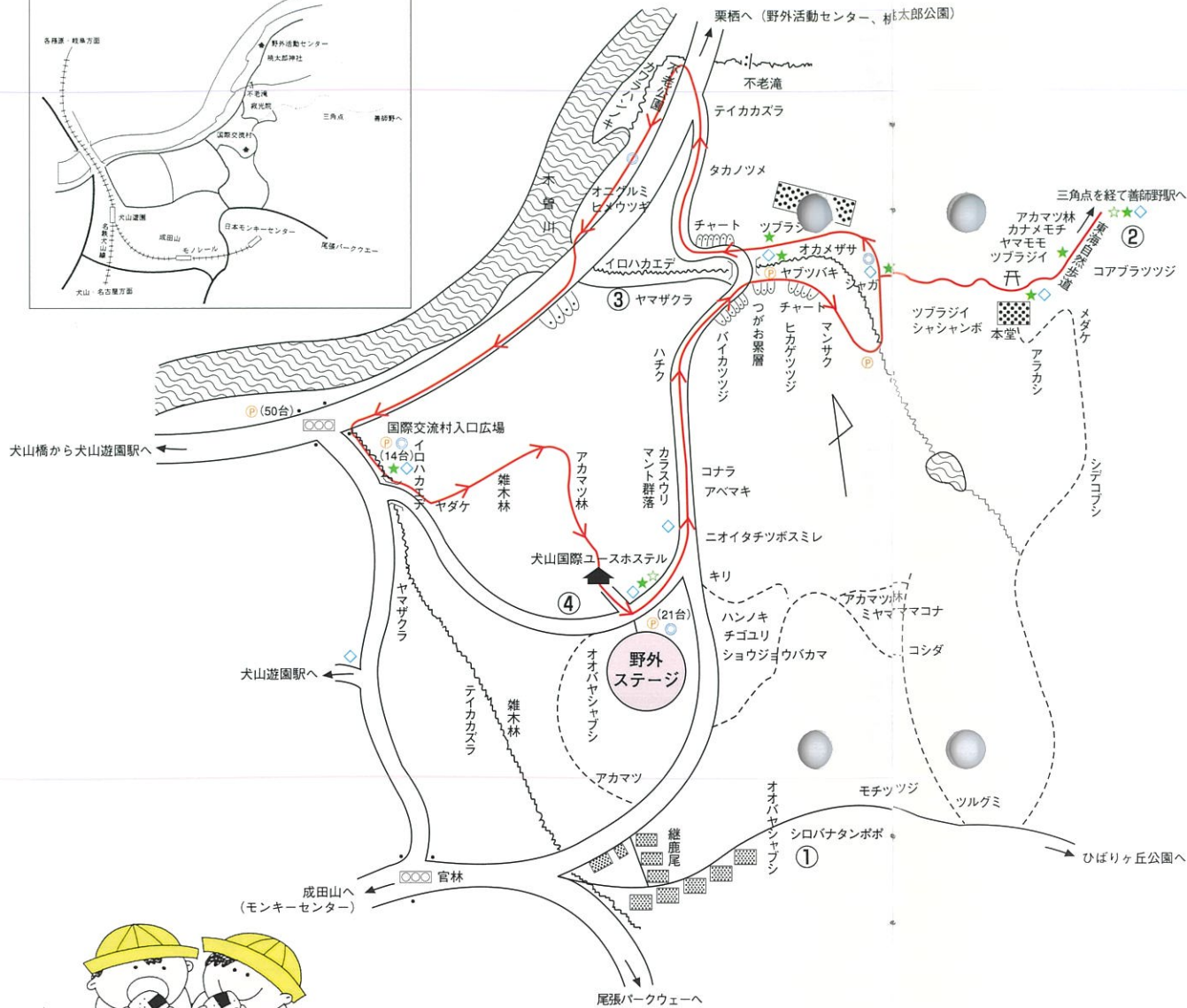
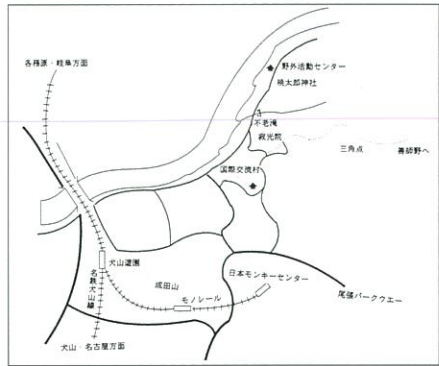


野外ステージ



自然は自分1人のものではありません。むやみに花や昆虫などを取るのはやめ、マナーを守って楽しく自然観察をしましょう。

つがおさん 継鹿尾山周辺コース案内図



つがおさん 継鹿尾山周辺コースについて

この地域は、雑木林、照葉樹林、アカマツの林が続くため、いろいろな林が比較して観察できる地域です。

古くから山腹に寂光院（じゃっこういん）があり、山全体が寺域であることから、自然の林がよく残された地域です。

また、自然度が高いため、探鳥地としてもよい場所です。継鹿尾山の頂上の三角点は、市内全域から濃尾平野、岐阜県側の山々も観察できる第一級の展望台です。

※三角点とは、三角測量（三角形を利用する測量方法）を行う時の基準となる点です。

※東海自然歩道は、緑豊かな自然と貴重な歴史を伝える文化財をたずね、心身の健康と安らぎを与える歩道で、東京の明治の森高尾国定公園から大阪の明治の森箕面（みのお）国定公園までの太平洋側の山麓に設けられた、全長1376kmの遊歩道です。

凡	例
—	継鹿尾山周辺コースの代表的なコース
◇	案内板 (地域の概要と所要時間を表示)
★	解説板 (観光地などの解説)
☆	名称板 (その地点の名称を示す)
○	トイレ
Ⓟ	駐車場

つが お
① 継鹿尾の集落から

春になると、私たちに鮮やかな黄色に花を見せてくれるタンポポの仲間に、白い花をつけるものがあるのを知っていましたか？
ここでは、この白い花をつけるタンポポを見てみましょう。

白いタンポポ

☆シロバナタンポポ

日本在来のタンポポで、市内では集落の周辺に多く見ることができます。

花茎は高さ30～40cmになり、その先端に、4～5月にかけて直径4cmの白い花を1個つけます。また、葉は長さ15～20cm、幅3～7cmで、他の種類のタンポポと比べると、葉が立っている感じがします。



シロバナタンポポ

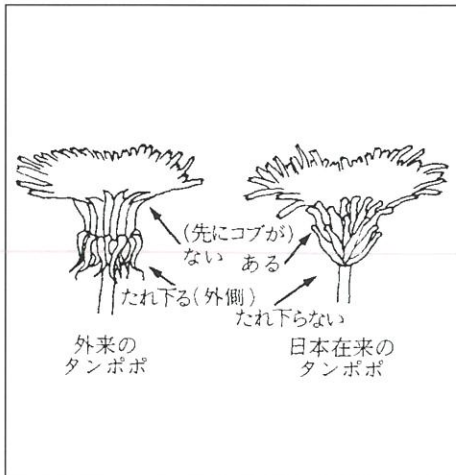
日本のタンポポと外国タンポポの違い

☆タンポポの咲く時期

日本のタンポポは春に花が咲きますが、外国のタンポポは1年中花をつけます。

☆タンポポの咲く場所

日本のタンポポは、草の多い土手や果樹園など昔からの自然がよく残された場所に多く咲いています。しかし、外国のタンポポの咲く場所は市街地やグラウンド、造成地など人の手が加わって、近年自然が大きく変化した場所に見られます。



日本のタンポポと外国のタンポポ

② 山頂へ向かう道で

寂光院（じゃっこういん）本堂から継鹿尾山（つがおさん）の山頂へ登る道の周囲では、アカマツの林を多く見ることができます。
ここでは、このアカマツの林について調べてみましょう。

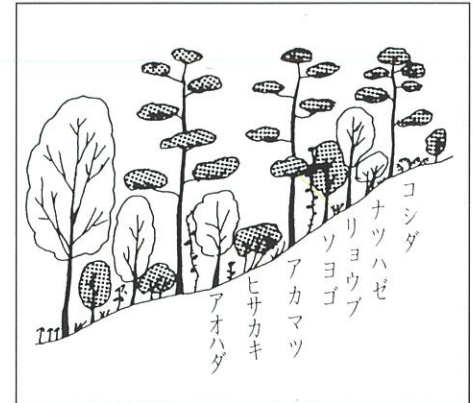
アカマツの林

本堂から上はアカマツの林になります。

林の中は全体が明るく、地面も乾燥しています。

このような場所には、日当たりの好きなやせ地に強い植物が育成します。

また、林床の一面にウラジロによく似たコシダが育成しています。



アカマツ林の構成

☆針葉樹……ネズミサシ

☆常緑樹……ソヨゴ、カナメモチ、シャシャンボ、ヒサカキ

☆落葉樹……リョウブ、アオハダ、ナツハゼ、ガンピ

◎カナメモチ

東海道以西の温暖な地に自生するバラ科の常緑小高木で、5～6月には木の枝先に直径8mmくらいの5弁の白い花が集まって咲きます。

新芽が赤いことから別名アカメモチとも呼ばれています。



アカマツ林



カナメモチ



コシダ

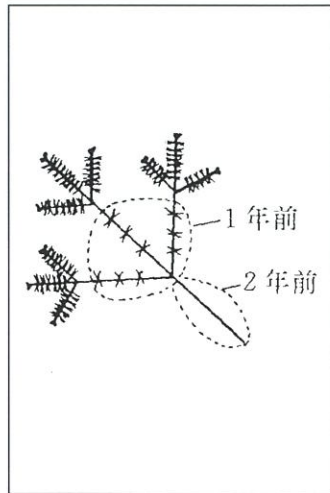
アカマツの年齢を調べよう

東海自然歩道沿いに背の低いアカマツの木が多く見られる場所があります。

ここは、数十年前山火事があった場所で、アカマツは山火事の後に生えたものです。

日本のマツは1年に1回枝わかれをするので枝の出た回数を調べるとその年齢がわかります。

ここに生えているマツは何歳か調べてみましょう。



マツの年齢

※日本のマツの葉は普通2本ですが、犬山市にはアメリカ産のマツも植林されています。
このマツの葉は3本です。
このコースのマツの葉は何本でしょうか？

ご飯がついた花？

ここでは、秋にミヤマママコナという変わった名前の花を見ることができます。

この花はコマノハグサ科の植物で、唇形の赤紫の花に白いご飯粒のようなものが2個付いていることから、「飯子菜(ままこな)」の名前が付けました。



ミヤマママコナ

山頂から見る犬山

自然歩道を歩いていくと休憩所があり、ここに二等三角点があります。

この三角点は、国土地理院の地形図を作るときの基準となる所で、一等から三等までおおむね山の頂上付近にあります。

このような場所は、その地域全体の地形を観察するのによい場所です。

◎犬山の地形

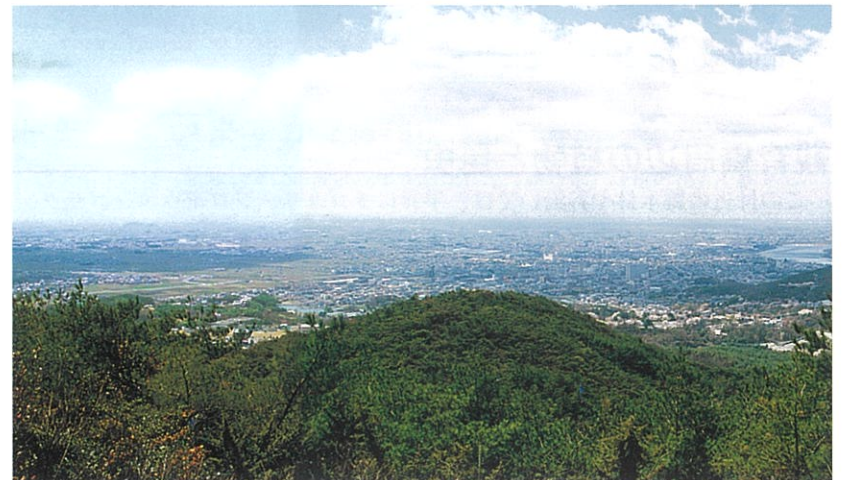
犬山は、その東部地域が丘陵地に、西部地域が濃尾平野の一部として平坦地になっており、市街地はこの西部地域にあります。

東から南にかけて八曾山、尾張富士、本宮山がそびえ、今井から、善師野までの山はなだらかになっています。この山の尾根をたどっていくと、栗栖を中心にU字状に曲がり、木曾川を挟んで対岸の山につながり、岐阜の金華山まで続いています。

ところで、犬山の北には木曾川が流れていますが、この水を利用するには不便な所です。それは木曾川が犬山の土地より低い所を流れているため、市内に入鹿池などため池が多いのもそのためです。



三角点



山頂から見る犬山

③ 観音橋周辺を歩く

花が咲き、鳥や昆虫たちが一生懸命に生活している林の中は、どのような仕組みになっているのでしょうか。
ここでは、林の中の仕組みとその周辺の自然について調べましょう。

シイの林

寂光院（じゃっこういん）の周囲にはシイノキが多く自生しています。このシイの林の中はうす暗く、木や草がまとまりがなく生えているようですが、高い木（高木）、中くらいの木（亜高木）、低い木（低木）にわかれており、また、林床には草や木の芽ばえ（草本）が見られ、林が4層の構造になっていることがわかります。

☆高い木（高木）……

ツブラジイ、タブノキ、
クロガネモチなど

☆中くらいの木（亜高木）……

サカキ、ヤマモモ、ヤブツバキ、
カナメモチなど

☆低い木（低木）……

アオキ、アラカシなど

☆草や木の芽ばえ（草本）……

ベニシダ、ジャノヒゲ、
ヤブコウジなど



シイ林の構成

このような林は照葉樹林と呼ばれる天然林で、同じ天然林でもこのような林を伐採（ばっさい）した後にできるものを二次林と言い、山すそは雑木林に、山頂部の乾燥したやせ地はアカマツ林になります。

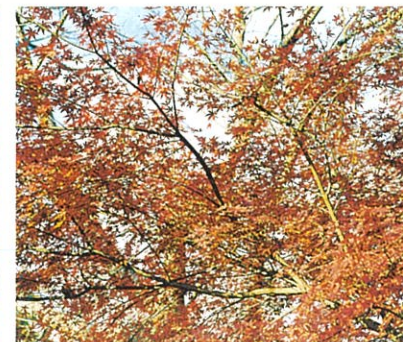
観音橋周辺の植物と昆虫

この付近の雑木林や谷沿いでは、早春にチゴユリ、ジロボウエンゴサク、ホウチャクソウ、オドリコソウなどがかわいらしい花を咲かせ、秋にはイロハカエデが見事な紅葉を私たちに見せてくれます。

また、観音橋付近にはタネツケバナが多く生え、幼虫がこの植物を食べるツマキチョウが観察できます。このツマキチョウは春にだけ姿を見せますが、タネツケバナが多く生えている水田よりも、山すそや山間の日陰がある場所に多く住んでいるようです。



ツマキチョウ



イロハカエデ

つがお累層^{るいそう}

観音橋の手前の山側の崖は、赤土の中に大きな角れきがまざった層で、「つがお累層」と名付けられています。この地層は、中・古生代のチャートの上に推積したもので、駐車場に入る道の横で観察することができます。



つがお累層



中・古生代のチャートの地層

知っていますか？（答えは17ページ）

◎犬山市では、昭和49年に市制20周年を記念して『市の木』『市の花』を制定しました。

制定方法は、『市の木』『市の花』を決める選考委員会が、下に書いてある5種類の木と花の候補を選び、市民の皆さんが投票してきめたものです。

<「市の木」の候補> カナメモチ クロガネモチ クロマツ スギ ヒノキ

<「市の花」の候補> アジサイ キク サクラ ツツジ ハギ

※『市の木』『市の花』にはどれが選ばれたのか、考えてみてください。

④ 犬山国際ユースホステル周辺

私たちが服を着るように、この周辺の林も服を着ています。
 それでは、林が着ている服とはいったい何なのか、調べてみることにしましょう。

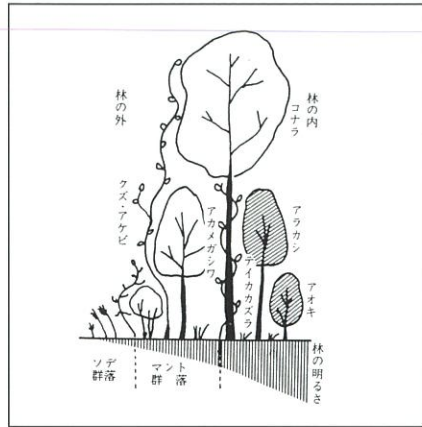
林が着ている服は？

観音橋から犬山国際ユースホステルの登り口までの、左手の林を夏に観察してみると、アケビ、フジ、クズ、カラスウリ、テイカカズラ、キズタなどのつる植物が林縁の木によじ登って、林をすっぽりと覆っているのが観察できます。これを「マント群落」と呼んでいます。

このつる植物のマントは、私たちが服を着ているように、林の側面を覆い、風や乾燥から林を守る大切な役目をしています。

外側から見て見苦しくじゃま者のようですが、この植物を切り払ってしまうと、林の状態が悪くなってしまいます。

このようなつる植物は幹を持たないことから、他の木によじ登って太陽光線を上手に利用しているのです。



林縁の植物

『マント群落』と『ソデ群落』

◎ 「マント群落」と「ソデ群落」をつくる植物たち

森林を覆うように生えている低い木やつる植物を「マント群落」、草の仲間を「ソデ群落」と言います。

「マント群落」… (低い木) クサギ、ヌルデ、ニワトコ、ムラサキシキブなど
 (つる植物) クズ、カナムグラ、ヤブガラシ、ヤマノイモなど

「ソデ群落」… (草の仲間) ヤブジラミ、ヨモギ、ヤブマメ、イノコヅチなど

陸に住む貝

貝というと海や川などの水の中に住む貝を思い出しますが、陸にも貝の仲間が住んでいることを知っていますか。

陸に住む貝とは、雨の日に活動しているのをよく見ることができるカタツムリのことです。

ここでは、カタツムリの仲間たちについて調べてみましょう。

陸貝の仲間たち

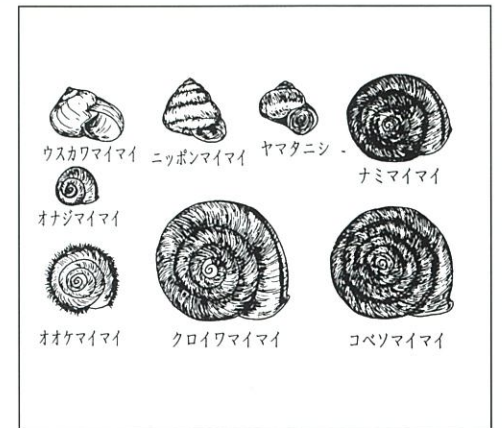
雨の中を歩いていると、いろいろな種類のカタツムリを見ることができます。

人家の近くにはナミマイマイ、オナジマイマイなどを多く見ることができます。

この他に、林の中では大きなクロイワマイマイや殻の外側に毛が生えているオオケマイマイ、殻の入口にふたを持ったヤマタニシなど、多くの種類のカタツムリを見ることができます。

また、落ち葉の下などを注意深く見てみると、そこには1~2mmの小さな貝を見ることができます。

これらのカタツムリの仲間は、人の手が加わった人工林より天然林の中で多くの種類が観察できます。



陸貝の仲間



大空を見上げてみれば

雑木林や照葉樹林などが多いこのコースの周辺は、犬山の中でも野鳥の多い地域で、鳥を観察するのに適した場所と言えます。
ここでは、どのような種類の鳥が観察できるのか調べてみましょう。

観察できる鳥の仲間たち

☆初夏に観察できる鳥

センダイムシクイ、ヤブサメ、
キビタキ、オオルリ、ウグイス、
アマツバメ

☆冬に観察できる鳥

アオジ、シメ、イカル、ウソ、
カケス、シロハラ、ルリビタキ

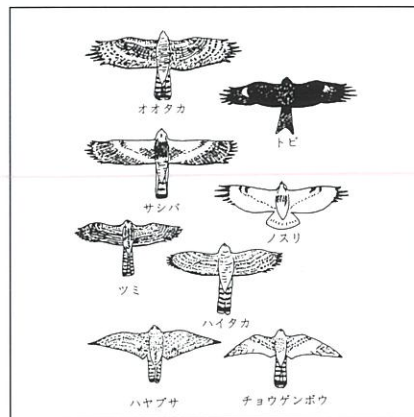
☆一年通してを観察できる鳥

キジバト、アオゲラ、コゲラ、
シジュウカラ、ヤマガラ、
メジロ



キジバト

この他に、オオタカ、サシバ、ノスリなどのタカも仲間もよく観察することができます。肉食のタカ類が住めるのは、この地域の自然度が高いことを示しています。



タカの仲間

☆オオタカ

おもに山地の森林や雑木林に生息するワシタカ科の鳥。

全長はオスが約50cm、メスが約60cmで、翼を広げると105~130cmになります。

目の上の白い斑点が特徴で、頭の上部から背中と尾、翼の上部が暗い青灰色で、体と翼の下面が白く黒い横斑があります。また、尾には4本の黒い帯があります。

バードウォッチングをしよう

◎服装はどうしよう？

- 服ははでな色彩のものはやめ、めだたないものを身につける。また、虫にさされたり、木にかぶれたりするのを防ぐため生地のじょうぶな長そで長ズボンがよいでしょう。
- 帽子はつばが広いものや飾りの付いたものは、森林の中を歩く時にじまになるのでやめましょう。
- くつは運動ぐつなど動きやすいものがよいでしょう。ただし、水辺に近づくことがある場合は、長ぐつの方がよいでしょう。

◎何を持っていけばいいのかな？

- 双眼鏡、鳥の図鑑、地図、ノートと鉛筆、雨具、救急薬品のほかに、ビニール袋、手袋、防寒具などはあると便利です。
- 荷物はリュックサックに入れて背負えば、両手は自由に使えます。



オオタカ

◎注意してください。

- 鳥を観察するのに夢中になって花を踏んだり、じまになるからといって木の枝を折ったりしてはいけません。自然は大切にしましょう。
- 自分が出したゴミは必ず持ち帰りましょう。
- 田畑や人の家の庭などに勝手に入ってはいけません。
- マナーを守って楽しく鳥を観察しましょう。

『ききなし』って何のこと？

◎「ききなし」は「聞做」と書き、鳥の鳴き声を人間の言葉におきかえて表現するものです。

- ☆ホオジロ・・・・・・・・・・一筆啓上仕り候
サッポロラーメン、ミソラーメン
- ☆ウグイス・・・・・・・・・・法法華経
- ☆ツバメ・・・・・・・・・・土食うて虫食うて渋い
- ☆メジロ・・・・・・・・・・長兵衛・忠兵衛・長忠兵衛
- ☆センダイムシクイ・・・・・・・・・・焼酎一杯グイー

冬の寒さのなかで

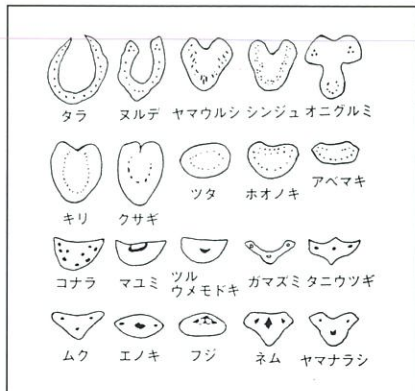
冬の森林は、すべての生き物が活動を停止しているように見えます。しかし、森林の木たちはやがて来る春に新緑の葉をつけるため、この寒い季節にいろいろな準備をしています。ここでは、森林の冬の姿を調べてみましょう。

冬の木の色

木の葉の落ちた雑木林は、夏に葉がしげってよく見えなかった幹や枝のつき方などを観察するのに適しています。

葉の落ちた跡（「葉こん」と言います）は、私たちの顔が一人一人違うように木の種類ごとに違うことがわかります。この葉の落ちた跡をよく見ると動物や人の顔に見えるものがあります。

葉の落ちた跡が何に似ているのか、よく観察して見ましょう。



木の葉の落ちた跡



冬の雑木林

春を待つ木の芽たち

葉が落ちた冬の木の枝には春が来るのを待っている木の芽たちがいますが、この木の芽たちをよく見るといろいろな形をしています。

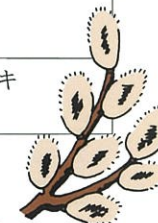
木の芽たちがどのようにして春を待っているのか観察してみましょう。

木の芽は鱗片葉（※りんぺんよう）と呼ばれる葉が変形したものにつつまれる鱗芽（りんが）と、葉が小さくなった裸芽に分けられます。

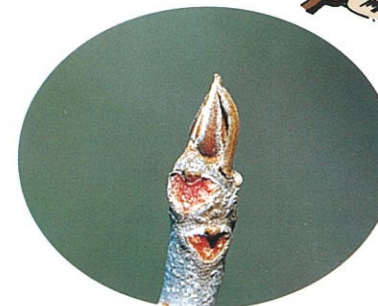
※鱗片葉

冬芽を包み、後に花・葉などになる軟らかい部分を保護する堅いうろこ状の葉

	芽の様子	木の種類
鱗	魚のうろこのような鱗片葉で芽を守る	サクラ、コナラ、オオバヤシャブシなど
	細かい毛が生えた鱗片葉で芽を守る	モクレン、コブシ、アオギリなど
芽	鱗片葉の1枚が芽全体をつつんでいる	ホオノキ、スズカケノキなど
	鱗片葉の表面にねばねばした液をつけている	トチノキなど
裸芽	葉が小さくなって固まっている	ムラサキシキブ、クサギ、ニガキ アカメガシワなど



オニグルミ



ヤマウルシ



オオバヤシャブシ



ムラサキシキブ

いろいろなツツジ

犬山市にはツツジの仲間が多いのですが、このコースの周辺にも色々な種類のツツジがあり、そのきれいな花で私たちの目を楽しませてくれます。どこの場所に、どのような種類のツツジがあるのか観察してみましょう。

ツツジの仲間たち

☆コバノミツバツツジ

市内の山に比較的多い高さ2～4mのツツジで、4月頃から直径3～4cmの紅紫色の花をつけます。

☆ヒカゲツツジ

名前のように日陰に生える高さ1m程のツツジで、4月頃から直径2.5～3cmの淡黄色の花をつけます。

☆モチツツジ

浅い山や丘に生える高さ1～2mのツツジで、5月から6月にかけて直径5cm程のピンク色の花をつけます。モチツツジの「モチ」はトリモチの意味で、花柄にねばりがあります。



ヒカゲツツジ

このほかにも、山野で普通に見られるヤマツツジや葉陰でひっそりと咲くバイカツツジ、ドウダンツツジによく似たコアブラツツジと多くの種類のツツジが見られます。また、ツツジと名前は付いていませんが、アセビ、ネジキ、ナツハゼ、シャシャンボ、ウスノキなどツツジの仲間も見ることができます。

10ページの答え

市民の皆さんの投票の結果、次のように『市の木』、『市の花』が決まりました。

- 『市の木』 「カナメモチ（アカメモチ）」が選ばれました。
※また、準『市の木』には「クロマツ」選ばれています。
- 『市の花』 「サクラ」が選ばれました。
※また、準『市の花』には「ツツジ」が選ばれています。

協力者（敬称略）

- 大竹 勝 (財)日本モンキーセンター学芸員
愛知県自然観察指導員連絡協議会会長
愛知県環境審議会委員
犬山市自然保護審議会委員

写真・イラスト

- 大竹 勝
■犬山市

参考になる本

- カラー自然ガイド (保育社)
- 「野山の木Ⅰ・Ⅱ」
 - 「野山の鳥」
 - 「水辺の鳥」
 - 「人里の植物Ⅰ・Ⅱ」
 - 「山の植物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- 犬山の自然シリーズ (犬山市)
- 犬山市の植生
 - 犬山市の自然をたずねて
 - 犬山市の昆虫
 - 犬山市の自然
 - 犬山市の野鳥



市の木「カナメモチ」



市の花「サクラ」



コースの代表的なシイ林

発行 犬山市役所 総務部 企画課
犬山市大字犬山字東畑36番地